

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鹿島市立明倫小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートからは、本校の教育活動に対して昨年度に引き続き、おおむね良好な評価を受けている。</li> <li>学力向上においては、学力向上コーディネーターや研究主任を中心に本校の課題を把握し、研修等を通して全職員で共通理解を図った。さらなる学力の底上げを図りたい。心の教育においては、児童理解を深め、組織的に対応するように努力した。個別に対応が必要なケースが増えているので、引き続きSCやSSW、鹿島市の福祉課や民生児童委員とも連携して対応していきたい。健康・体づくりにおいては、スポーツチャレンジやジョギングタイム等に取り組み、運動に親しむ機会を増やすことができた。業務改善、働き方改革については、昨年度に比べ改善傾向にあるが、さらなる重点的な取組や職員の意識改革が必要である。</li> <li>地域の協力を得て、児童は安全に安心して地域で過ごすことができた。また、地域の人材を生かした活動として、面浮立の面づくり、米づくり等に取り組みした。今後も、地域人材を有効に活用していきたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	「いい顔 いい声 いい動き」の明倫っ子の育成
3 本年度の重点目標	<p>【知】自ら考え学ぶ子どもの育成</p> <p>【徳】思いやりのある子どもの育成</p> <p>【体】たくましい子どもの育成</p>

4 重点取組内容・成果指標			中間評価	5 最終評価			主な担当者			
(1)共通評価項目			中間評価		最終評価					
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価		
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践に向けた取組の充実	○学校評価アンケートにおいて「落ち着いた授業の実践に満足している」と回答する児童95%以上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートにおいて「落ち着いた授業の実践に満足している」と回答した児童は93.2%と、やや下回っている。校内研修にて作成した「指導法改善ワークシート」を活用し、学校全体で授業改善に取り組む。</li> <li>1人1台端末を進んで活用できたことと回答する教師が95%以上で、目標を大幅に上回ることができた。今後も継続して、1人1台端末の積極的な活用に取り組んでいく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートにおいて、「落ち着いた授業の実践に満足している」と回答した児童は93.8%だった。成果指標からは下回ったが、前期のアンケートに比べて上回っており、授業改善に取り組んでいる成果が表れている。</li> <li>1人1台端末を進んで活用できたことと回答する教師が100%だった。</li> <li>デジタルドリルの導入1年目ではあるが、積極的に活用できている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>しっかり机に座り落ち着いて授業ができています。</li> <li>先生方が授業改善に努力されていることが充分に出ていると思う。</li> <li>今後もデジタルドリル等のICTを活用した学習を推進していただきたい。</li> </ul>	(学力向上コーディネーター)	
	○主体的に学びに向かう児童の育成	○めあてを明確にした授業を行うことができたことと回答する教師90%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の興味関心を高める課題設定の工夫。</li> <li>児童が進んで課題解決に取り組むための見通しの具体化。</li> <li>ICTを効果的に活用する。</li> </ul>	めあてを明確にした授業を行うことができたことと回答した教師は100%で、目標値を上回ることができた。今後も継続して、めあてを明確にした授業実践に取り組んでいく。	A	めあてを明確にした授業を行うことができたことと回答した教師は100%で、目標値を達成することができた。また、めあてを意識して授業に取り組むことができたことと回答した児童が93.9%だったことから、教師の意識が児童にも浸透してきていることが分かる。	A	児童の将来につながる授業だと思いつつも、先生方の大変さが伝わる。	(学力向上チーム長)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「生活の4つの約束を守ることの良さを感じる」と肯定的に回答する児童を90%以上にする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校児童への周知、特に意識することの伝達は、各月ごとに行っている。児童の意識を根底から変えるには至っていない。</li> <li>9月の授業参観「ふれあい道徳」では、学級閉鎖などで実施が難しい状況の学年があった。参観日だけでなく、お便りや道徳の内容や児童の考えを共有するなど、親子でも考える工夫を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校児童への周知、特に意識することの伝達は、各月ごとに行っている。児童の意識を根底から変えるには至っていない。</li> <li>9月の授業参観「ふれあい道徳」では、学級閉鎖などで実施が難しい状況の学年があった。参観日だけでなく、お便りや道徳の内容や児童の考えを共有するなど、親子でも考える工夫を行っている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの結果では、生活の4つの約束のうち、3つの項目について約束を守ると答えた児童が90%を越えた。また、前期と比較してもやや増加しており、児童全体の意識の向上が感じられた。しかし、職員の意識とずれがあることから、理想に向けて根気強く指導を続けていく。</li> <li>職員研修等で道徳や人権同和への理解を深め、計画的な指導の必要性を職員間で共通理解できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校時のあいさつがよくできていた。進んでする子も多くなった。</li> <li>社会、時代、環境によって道徳や人権の考え方は違うと思う。柔軟な対応をお願いしたい。</li> </ul>	(心育でチーム長)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○(心のアンケートで肯定的な回答をした児童を90%以上にする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>QUテストを実施し、効果的に活用する。</li> <li>学校全体で対応できる体制をつくる。</li> <li>心のアンケートを定期的実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月にQUテストを実施し、その後、夏休期中に講師を招いて分析の仕方や、気にかける児童について研修し学級経営に生かしている。</li> <li>心のアンケートや「はあとボックス」など不安感やイライラ感のある児童を把握し、SCとの面談につなげている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1つ「かみしいのび」プログラムを実施する児童が前期に比べ増え、11月毎月のアンケートを行うことで、児童の継続的な変化を見ることができ、いじめの早期発見や早期対応につながった。児童理解に心のアンケートで肯定的な回答した児童を90%以上にすることで、継続して生活習慣を整えることの大切さについての指導していく必要がある。また、実技研修に参加したり、講師の先生を招き、体育の学習の在り方について話していただいたり、職員間で共有することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月心のアンケートを行うことで、子どもたち自身も次第に姿勢が見られると思う。</li> <li>引き続き一人一人への細やかなご指導をお願いしたい。</li> </ul>	(教育相談担当)
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて努力しようとするための教育活動	●「将来の夢や目標に向かって努力している」と肯定的に回答する児童生徒を80%以上にする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポートを活用し、目標や見通しをもって活動に取り組ませたり、活動を通して伸びた力について振り返らせたりする。</li> <li>地域の人・物・事を活用した体験活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「将来の夢や目標に向かって努力している」と肯定的に回答した児童が90.8%</li> <li>面作りや米作り、平和学習など各学年に応じて、地域の特色やを生かした体験活動を充実させることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「将来の夢や目標に向かって努力している」と肯定的に回答した児童が92.8%と高評価であった。</li> <li>キャリアパスポートや学期ごとの個人のめあてを書かせることで、自分の目標を明確にし意識づけさせることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>夢や目標等は、児童の主体性を尊重してあげてほしい。</li> </ul>	(ときめきチーム長)
	○児童が主体的に取り組む特別活動の充実	○「学校行事や学級活動、児童会活動に楽しんで取り組んでいる」と肯定的に回答する児童を80%以上にする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事において実行委員を募り、児童が主体的に活躍できる場を設定する。</li> <li>学級活動を充実させ、児童が中心となって活動できるよう発達段階に応じた支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会や明倫祭などの主な行事で実行委員を募り、活動を行ったことで、主体的な取り組みが見られた。各学年でも実行委員形式を導入して取り組むことができていた。それにより、「学校行事や学級活動、児童会活動に楽しんで取り組んでいる」と回答する児童が90.6%となった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>後期も主な行事で実行委員を募り、活動を行ったことで、より主体的な取り組みが見られた。経験を重ねることで実行委員としての活動がより充実した。</li> <li>「学校行事や学級活動、児童会活動に楽しんで取り組んでいる」と回答する児童が93.1%と数値が上がった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童主体の取り組みはとても良いやり方だと思う。やりたいことをどんどんやらせてほしい。</li> </ul>	(ときめきチーム長)
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒70%以上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に親しむことで体力の向上が図れるような魅力的な体育の授業実践を目指す。</li> <li>運動に親しみやすいような環境・道具の設定を行う。</li> <li>食育や保健体育、特活等の学習を通して生活習慣を整えることの大切さの理解と啓発を図る。</li> <li>生活習慣に関するアンケートを実施する。(2月に実施予定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の体育の学習は各担任任せになっており、職員間で共有するような場を設けることができていなかった。後期には講師の先生を招き、実技研修などを行ってもらう予定である。サッカーゴールの設置等で確保するような場を設定することができた。毎月の食育タイムや食育の学習、保健体育や家庭科の学習を通して、食生活や生活習慣を整えることの大切さについて指導を行っている段階である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートを実施したところ、「健康には、食事をしっかりとったり、適度な運動をしったり生活習慣を整えることが大切である」と回答した児童は98.3%だった。しかし「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上」と回答した児童は75.9%で「健康に良い食事をしている」と回答した児童は84.5%だった。知識として生活習慣の大切さについて理解しているが、行動として伴っていない児童が多いことが分かる。いづれともポイントとしては昨年年度と比較して上昇していることで、継続して生活習慣を整えることの大切さについての指導していく必要がある。また、実技研修に参加したり、講師の先生を招き、体育の学習の在り方について話していただいたり、職員間で共有することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食など健康に良い食事をしている児童が多いということに安心した。</li> <li>授業以外での運動や食事については、保護者の協力が大切なので、マチコメメール等で啓発してみてもどうか。</li> <li>食生活改善は、親の意識改革が必要だが、仕事があり、難しい面がある。今後児童の意識改革を、外部機関と連携し考えてい必要がある。</li> <li>食事、運動、睡眠が健康には欠かせないと思う。睡眠に関するデータもあるとよい。</li> </ul>	(体づくりチーム長)
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日(毎月第3水曜日、毎週金曜日18時)を設定し、時間外勤務の削減を図る。</li> <li>年次有給休暇を計画的に昨年度実績以上とるように呼び掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月までの時間外月45時間を遵守した職員の割合は、82.2%だった。定時退勤日が職員に定着し、時間を意識した業務への取り組みが見られるようになった。</li> <li>年次休暇の取得については、引き続き呼び掛けを続けていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月までの時間外月45時間を遵守した職員の割合は、83.6%だった。10月以降に限れば、92%であり、年度当初と比べ、タイムマネジメントの意識の向上が見られた。</li> <li>年次休暇の取得については、昨年と比べ平均2.6日増加し、仕事と生活との調和の意識が高まってきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事と休みの時のメリハリが出来ていることは、向上しているのよいと思う。</li> <li>お休みがしっかり取れているのか心配だ。少しづつ工夫して、しっかり休みを取りやすくなるようにしてほしい。</li> <li>学校現場の人手不足や多忙化に伴う教員の働き方改革は必要だと思う。</li> </ul>	教頭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		主な担当者			
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果				
○開かれた学校づくり	○外部評価の結果の公表と改善	○地域人材を活用した教育活動を各学年、年間1回は実施する。 ○地域との連携に関する学校評価(十分達成以上)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会での意見をもとに学校改善を行う。</li> <li>学校便りの配布やマチコメメールを活用した月2回以上の情報発信に努める。</li> <li>地域人材を活用した教育活動を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>田植え・稲刈り体験、お面作りなど、各学年で地域の人材を活用した教育活動を行うことができていた。</li> <li>地域との連携に関する学校評価アンケートでは、教員の100%が肯定的な回答だった。</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域人材や外部講師を活用した教育活動を、各学年、年間1回は実施することができた。</li> <li>行事の案内や駐車場等の案内、感染症等お知らせ等、マチコメメールを有効に活用し、学校の情報発信を行うことができた。</li> <li>地域との連携に関する学校評価アンケートでは、後期も教員の100%が肯定的な回答だった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>マチコメメールが大変役立っている。</li> </ul>
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートからは、本校の教育活動に対して昨年度に引き続き、おおむね良好な評価を受けている。</li> <li>学力向上においては、学力向上コーディネーターや研究主任を中心に、1人1台端末の活用やめあてを意識した授業づくりが進んだ。さらに主体的に学ぶ児童の育成を図りたい。心の教育においては、児童理解を深め、組織的に対応するように努力した。個別に対応が必要なケースが増えているので、引き続きSCやSSW、鹿島市の福祉課や民生児童委員とも連携して対応していきたい。健康・体づくりにおいては、食育タイムや食育の学習を使って健康に良い食事を心掛ける児童を増やすことができた。業務改善、働き方改革については、昨年度に比べ改善傾向が見られた。さらなる業務の見直しや職員の意識改革が必要である。</li> <li>地域の人材を生かした活動として、面浮立の面づくり、米づくり等に取り組みした。今後も、地域人材を有効に活用していきたい。</li> </ul>									

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育